



### stage 4 映るエリアをチェック



正しく動作するか、ボタンを押して強制録画してみる。あわせて、映る範囲もチェックしてみた。シチュエーションは狭い路地での出会い頭を想定。フロントガラスから107度の範囲が撮影される。

### どら猫2の映像



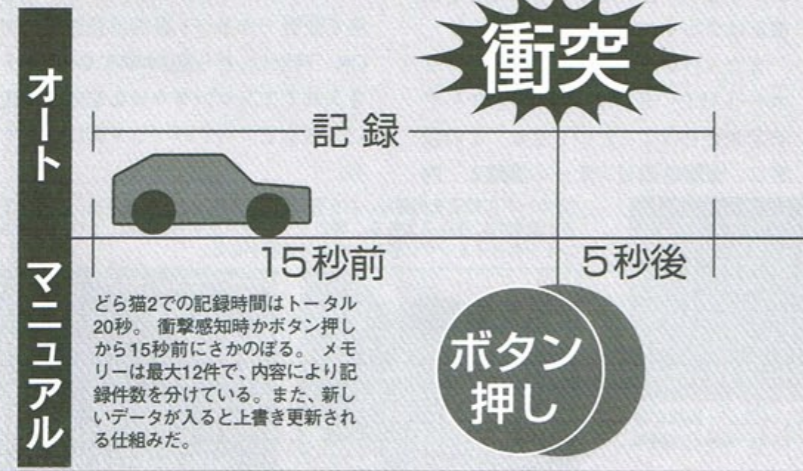
ブロック塀の際から、3メートルほど下がった位置からの映像。実際の事故で、突然相手が横から飛び出てきたときは、フロント部が映るかどうかというタイミングになるだろう。

### 撮影中のアクション



正常待機時は、青LEDが点灯し、記録中は点滅する。異常時は赤LEDが点灯。CFデータフル時は赤LEDが点滅(自動で上書きする)。前方で事故が起こったときや、衝撃が小さく自動で作動していなかったときに記録する場合は、ボタンを押すと記録する。

### どら猫2の記録時間とタイミング



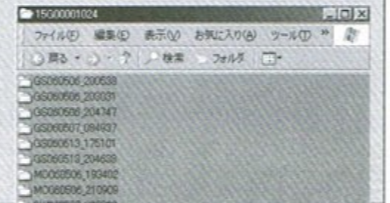
### ボンネットの半分より前方から撮影される

どら猫2の取り付けが正常にできたら、録画ボタンを押して強制録画を行ってみる。その画像をパソコンで表示させて、正常に撮影されたか確認しておく。ここでは、信号のない交差点で出会い頭の事故を想定して、装着車両の車を他のクルマで横切ってみた。

メーカーの発表しているカメラの使用は、画角が水平で107度、垂直が79度になっている。撮影映像を見ると、フロントウインドウの下側の両端が持ち上がっていて、左右は上下に圧縮されたような画像になっているが、状況は十分認識できる映像になっている。撮影される範囲は、ボンネットのある乗用車では、半分より先が写っている状態だ。たとえば併走車がいる場合は、隣のクルマが半分ほど前方に出たくらいで画角内に入ってくる。このため、出会い頭を想定した場合、相手が自車の前にいるなら写るが、真横にぶつかった場合は、画角に入らず自車の映像の進路が乱れるという内容になると思われる。最近では、画像処理技術が発達しているので、魚眼レンズを使いながら映像のゆがみを取ることも行われつつある。フロントガラスの光学的な影響やコストの制約もあるだろうが、横の状況がもう少しわかるといいのではないだろうか？

### メモリーする状況

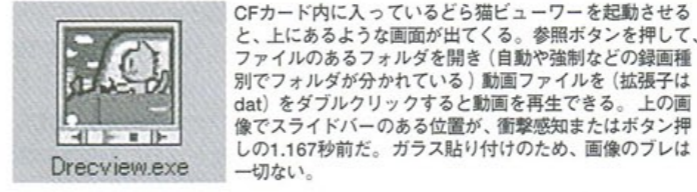
- 大きなショック入力時 **2メモリー**
- 中程度のショック入力時 **4メモリー**
- ユーザー操作時 **6メモリー**



### stage 5 撮影画像をチェックしてみる



### どら猫ビューワの画面



### 30フレーム/秒の映像は、大変なめらか

約3週間テストしてみたが、幸い事故に遭遇することもなく過ぎたので(テストには不幸?)、何度か強制録画を行ってみた。映像はテレビを見ている感覚と同じで、きわめてスムーズだ。画面のゆがみから実際より速く見える

傾向にあるが、周りのクルマや歩行者の動きもきちんと認識できる。よほど逆光にならない限り交差点の信号の色もわかるので、信号無視のクルマがあった場合はしっかり記録されるだろう。直前のクルマはナンバーも読める。なお、パソコン上の初期画面では、290×180だが拡大表示も可能。段差や路面の大きなうねり、急なブ

レーキやハンドル操作があったときには、自動的に記録を開始しているときもあった。この場合は、ピッと音が鳴っているがアラーム音は控えめだ。もう少し大きくてもいいだろう。また、マニュアル操作したときも、15秒前から記録されるため、アクシデントを見かけたときも、それほどあわててボタンを押さなくてもいいようだ。

### 総合結論 万々に備えて装着しておきたい用品

万一の事故を考えると、リアルタイムで撮影された映像の力は絶大だというのが全体を通しての印象だ。最近では、世の中のモラル低下も著しく、明らかに過失があっても知らぬ存ぜぬとシラを切ったり、必要な保険に加入していないオーナーも存在すると聞く。また、深夜の信号無視車など、目撃者のいない状況で事実関係を立証しにくい状況もある。ただでさえ事故はイヤなものだが、後

処理が長期間続くのもイヤなものである。そんな状況を回避するには、かなり有効なツールであろう。ただ、使ってみると欲も出てきてしまい、真横や後ろも見たいとか360度の状況を記録してほしいと思ってしまう(4台設置が有効か)。どら猫2の映像は、裁判では使えないが、大抵は映像があることで示談交渉を進めやすくなるそうである。全般には簡単に使いこなせるよう

まとめてあるが、CFを入れ忘れたときの警告機能が欲しい。運転席から本体を直接見えないようにつけると、ランプの状況もわからないし、実際に入れ忘れていたこともあった。作動中やマニュアル操作時のアラーム音も大きくしたほうが、安心感が出るように思う。また、価格がこなれてくれば、普及に拍車がかかるのではないと思われる。



### 夜もきれいに映る



左は夜の町中を走行中。仮に、左前方車線(自車との間隔は約1台分前)のクルマが急に車線変更してきたような状況下なら確実に撮影できる。画像の荒れも少ない。右は、照明のない道路での画像だが、ヘッドライトの照射範囲が映し出される。